

ドリアス

富山県

No.42 2007年1月

中央植物園だより



モウソウチク *Phyllostachys pubescens* Manzel ex Houz.

国内では最も大きなタケで高さは20mを超え、直径は25cmにもなることがある。食用筍のほとんどはモウソウチクで、建築材や民芸品など用途も広く、日本では最も馴染み深いタケの一つである。原産は中国で、一般には1736年に薩摩の島津家に琉球王から贈呈されたものが日本全国に広まったといわれている。しかし、古文書などを調べると、それ以前にモウソウチクが日本に渡来していたことが記されているようである。

「イナバウアー」 撮影／小柴 一夫さん(平成18年度私の植物写真展応募作品)

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

「干支にちなんだ植物展」

—— ゆく戌・くる亥 ——

1月31日まで(水)



中国ではウツボカズラを「猪籠草」という

恒例の「干支にちなんだ植物展」を1月31日まで開催しています。

昨年の干支「戌」にちなんだ植物と今年の干支「亥」にちなんだ植物を実物のほかに写真、標本、植物画などで紹介しています。「亥」にちなんだ植物は他の干支と比較すると種類が少ないのですが、中国語で「猪」はブタを意味することから、ブタに関する植物も展示しています。「亥」にちなんだ植物にはシクラメン(ブタノマンジュウ)、カタクリ(猪牙花)、イノコズチ(猪子植)、イノデ(猪の手)、ウツボカズラ(猪籠草)などがあります。



「ブタノマンジュウ」の語源となったシクラメンの塊茎

「平成18年度研究紹介展」

2月2日(金)～2月28日(水)

中国科学院昆明植物研究所との共同で行ったアヤメ属(*Iris*)植物に関する研究や富山県で新たに発見した植物やキノコなど、中央植物園の職員が行っている研究の成果をポスターで紹介します。

関連行事「平成18年度研究発表会」

■日時:2月4日(日) 13:00～17:00 ■場所:中央植物園 管理研修棟研修室

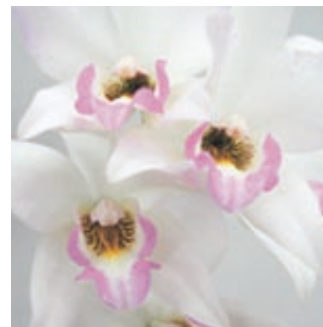
研究紹介展で紹介している研究内容を職員が発表し、質問にお答えします。

「第35回富山県蘭まつり大会」

3月2日(金)～3月4日(日)



富山県蘭協会と共同で開催する県内最大の蘭展です。今回は「皇族の名前がついたラン」の特別展示を行う予定です。そのほかに、愛好家が丹精込めて栽培した300鉢を超える洋ランや東洋ランを展示します。会期中はランの即売会もあります。



昨年人気を博したダイアレリア ミゾグチ “プリンセス・キコ”

関連行事「ラン栽培講習会」

- 3月3日(土) ●洋ランの栽培 10:00～11:30 ●野生ランの栽培 14:00～15:30
- 3月4日(日) ●東洋ランの栽培 10:00～11:30 ●洋ランの栽培 14:00～15:30
- 日 時:中央植物園 ドリアスホール ■ 入園料:大人600円が必要です。

植物園トピックス

とやま若者チャレンジ事業の「ハートフル花いっぱい運動第2回コンテナガーデンコンテスト」が開催されました

富山国際大学の地域学部の学生が中心になり、コンテナガーデンコンテストなどが行われ、フローラルステージでは琴や三味線の演奏が行われました。



日本植物園協会の第24回国立植物園運営会議が富山で開催されました

社団法人日本植物園協会には富山県中央植物園を含め約120の植物園が加盟しています。11月8日(水)・9日(木)に富山県中央植物園が所属する第二部会(国公立園)の運営会議が富山県で開催されました。中田政司副主幹研究員による基調講演「雪国の植物園」の後、指

定管理者制度や入園者対策など活発に意見交換が行われました。



昆明植物研究所との共同研究の実施

平成18年9月28日から10月28日までの約1ヶ月間、大宮副主幹研究員が雲南省昆明の中国科学院昆明植物研究所に滞在しました。今年6年目になる共同研究は、3つ目のテーマであるアヤメ科植物を対象に、(財)国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて実施されました。アヤメ属の分類上重要な地下部の形態について同研究所の沈雲光さんと観察を行い、見かけの形だけでなく、切片を作成し、外部からは分からない特徴も比較します。これらの結果はまともしだい発表する予定です。写真は観察に先立って掘り上げられたアヤメ属植物(昆明植物園で)



中央農業高校の生徒によるフローラルステージの植え替え

11月22日(水)に中央農業高校園芸デザイン科環境緑化コースの2年生10名が、フローラルステージの植物の植え替えを行ってくれました。中央農業高校の生徒さんによるフローラルステージの作業は春に続いて2回目で、今回はパンジーの苗を植えました。



■活動報告(9~11月)

「小・中学生夏休み作品展」

9月8日(金)~10月18日(水)



県内の小中学校の児童・生徒が夏休みの間に行った植物に関する研究やどんぐり工作、植物染めのハンカチなどを展示しました。

「秋のガーデニング相談会」

10月22日(日)



講師の宮川敏さん(友の会会員)によるシール付きポリ袋を使ったユニークな冬越し方法が紹介されたほか、参加者同士の熱心な意見交換も行われました。

「第27回植物画講習会」

9月31日(土)・10月1日(日)



最近植物画への関心が高く、参加者の皆さんは2日間にわたり、熱心に作品に取り組んでいました。

「菊展」

10月20日(金)~11月15日(水)



11月には各地で「菊展」が開催されますが、中央植物園では「嵯峨菊」、「伊勢菊」、「肥後菊」などの古典菊も展示し、入園者の関心を集めました。

「どんぐりで遊ぼう」

10月8日(日)・10月15日(日)



ドリアスホールでの「どんぐりで遊ぼう」にはたくさんの親子連れが参加し、思い思いの作品を作りました。

園芸講座「菊づくり12ヶ月」

10月29日(日)



「菊展」の開催に合わせて、菊の栽培講習会が行われました。講師は婦中町菊花会の村井外世さんで、終了後も熱心に質問をする参加者の姿が見られました。

平成18年度富山県中央植物園地域子ども教室推進事業

植物園であそぼう！

昨年度に引き続き、小中学生を対象にした富山県中央植物園地域子ども教室推進事業「植物園であそぼう！」を行ってきました。この秋は「どんぐりで遊ぼう」や「植物園できのこを探そう」、「かぼちゃのチョウチンづくり」、「植物バイオの実験」、「クリスマス飾りを作ろう」などを行いました。毎回、たくさん子どもたちが参加し、思い思いの作品を作っていました。

春のバイオ教室に参加してくれた富山市の高橋優希くんが、バイオで育てたセントポーリアを持ってきてくれました。とても順調に育っています。



かぼちゃで作ったチョウチンに火を灯して記念撮影。みんなろうソクの火を見るとケーキが食べたくなるようでした。



植物園の園内にも、食用になったり、毒を持っていたりする様々な種類のきのこが発生することがわかりました。



みんな思い思いのクリスマスリースができました。

研究紹介 中国雲南省のナツフジ属植物

副主幹研究員 大宮 徹

日本のフジやナツフジに近縁なナツフジ属植物は世界に100種ほど知られ、中国には35種、そのうち雲南省には27種が自生しています。雲南省ではそのほとんどが低地の熱帯から標高2,000メートル前後の比較的暖かい地方に点々と分布しています。ナツフジ属というつる性の植物をイメージするかもしれませんが、実際はつる性木本、攀じ登り木本、灌木、高木と実にさまざまです。ナツフジ属イクチオクトナはその中でも最も大きくなる高木のひとつで、ベトナム国境に近い小さな町の町はずれに樹高20メートル近い2本の株が周辺の人々に大切に守られています。一方、ナツフジ属パキカルパは大型の攀じ登り木本で、無数に枝分かれして山の斜面を被います。その果実は鶏卵を2個、3個くっつけ合わせたような形で、表面にはコルク質の小さな斑点が散在します。ナツフジ属ディエルシアナはそれより小さな攀じ登り木本で、省都昆明の近郊にも自生し、「香花崖豆藤」という中国名のとおり香りのよい花を觀賞するために採取され、売られているのを見かけることもあります。また根を切ると赤い汁が出てくることから「鶏血藤」の別名があり、薬用植物としても利用されます。これらナツフジ属植物は標本などの記録や、かつての自生地の人々の話などから、以前は雲南省の各地でよく見かけられたものようですが、現在はなかなか見つけるのが難しくなっています。も

っとも大きな要因は、ナツフジ属植物が生育するような、比較的自然的に残された森林が開発などにより年々減りつつあることのようにです。貴重な資源を守るために、広範囲で実態

を調査する必要があるでしょう。また、そのような調査を簡便、正確に行うため、富山県中央植物園と中国科学院昆明植物研究所との共同研究では、よく標本が採られる果実について特徴を調べています。



写真:左からナツフジ属イクチオクトナ、ナツフジ属パキカルパ(果実)、ナツフジ属ディエルシアナ(根を切ったところ)

話題の植物

コブクザクラ (子福桜)

「コブクザクラ」は晩秋と春の2回咲く珍しいサクラです。1つの花にめしべが2本あるものが多く、果実も一つの花から2個できる場合が多いのが特徴で、これを子宝に恵まれることに例えて「コブクザクラ(子福桜)」というめでたい名前があります。

中央植物園では「サクラ・ウメ園」に5本植えられています。11月頃は「コブクザクラ」の花は白色で、隣に植えられているやはり秋に咲くピンク色の「ジウガツザクラ」とのコントラストがたいへんきれいでした。



コブクザクラの花



語源となったコブクザクラの双子の果実

催し物のご案内

■サンライトホール展示

●干支にちなんだ植物展
12月8日(金)～1月31日(水)
9:00～16:30 入園料が必要です

●平成18年度研究紹介展
2月2日(金)～2月28日(水)
9:00～17:00 入園料が必要です

●第35回富山県蘭まつり大会
3月2日(金)～3月4日(日)
9:00～17:00
富山県蘭協会との共催で約300株の洋ランや東洋ランを展示します
入園料が必要です

●私の植物画展
3月6日(火)～3月28日(水)
9:00～17:00
一般募集した植物画を展示します
入園料が必要です

■私の植物画展作品募集

1 応募要項
・科学的に正確な精密画で、透明水彩絵の具で彩色したもの、あるいは墨入れした線画
・A3サイズ以下(297mm×420mm以下)
・1人1点 ※額装の必要はありません。
2 応募方法
・作品の裏面に氏名、描いた植物名、完成年月日、住所、電話番号を記入し、植物園まで持参または送ってください。
・郵便での返送をご希望の方は、郵便切手を添えてお申込ください。また、着払い宅配便での返送をご希望の方はその旨お知らせください。

3 作品受付期間
平成19年1月5日(金)～平成19年2月18日(日)
4 作品の送付先
〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42 富山県中央植物園

■観察会・講座・講習会

●ボランティア基礎講座4
「植物の名前について」
1月7日(月) 13:00～15:00
場所/研修室
講師/中央植物園職員
定員/50名 参加費/無料
植物の和名や学名について解説します。

●電子顕微鏡で植物を観察しよう
◆要申込
1月21日(日) 13:00～15:00
場所/実習室、電子顕微鏡室
定員/12名 参加費/無料
植物の花粉やきのこの胞子を観察します

●平成18年度研究発表会
2月4日(日) 13:00～16:00
場所/研修室
定員/50名 参加費/無料

●ボランティア基礎講座5
「植物園の研究活動と県の自然環境の保全」
2月25日(日) 13:00～15:00
場所/研修室
講師/中央植物園職員
定員/50名 参加費/無料

●デジカメ講座「花を撮ろう」
◆要申込(富山県ITセンター:076-444-7887へお申込ください)

2月28日(水) 9:50～15:30
場所/研修室、園内、富山県ITセンター
定員/16組 参加費/無料
富山県ITセンター情報工房との共催行事で、午前中は植物園で花を撮影し、午後はITセンターでオリジナル植物図鑑を作ります

■月例行事

●日曜植物案内
1月7日(日)・2月4日(日)・
3月18日(日)
11:00～12:00
集合場所/サンライトホール
参加費/入園料が必要
ガイドボランティアが見頃の植物や話題の植物を解説します

◎要申込 事前の申込が必要です。前日までに「電話」でお申込みください。
◆要申込 事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から「往復はがき」で受け付けています。

友の会会員募集中!

■特典 会員証を示しサインするだけで入園できます。/会報や植物園だよりが送られてきます。/多彩な友の会の行事に参加できます。/印刷物を割引で購入できます。

■会費 年額3,000円。5月以降、新規に加入される方は初年度会費の割引を受けられます。

■入会方法 植物園の入園窓口で随時受け付けています。

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)

休園日 毎週木曜日、年末年始(12月28日～1月4日)
入園料 大人(一般および大学生) 600円
団体料金(20名以上) 480円
高校生以下 無料

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ」経由萩の島循環に乗車し「中央植物園口」停留所下車、徒歩約8分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR速星駅より車で約8分